

ネットワークアンケート ⑥1

糖尿病ネットワークを通して 医療スタッフに聞きました

Q. SMBGの測定結果を管理するソフトを導入していますか？

Q. どんな方法で患者さんのSMBGの記録を確認していますか？ n = 62 複数回答(%)

- 自己管理ノート 79
- 製薬企業等が配布する管理手帳やグラフ表など 32
- 患者さん独自の手帳や日記など 23

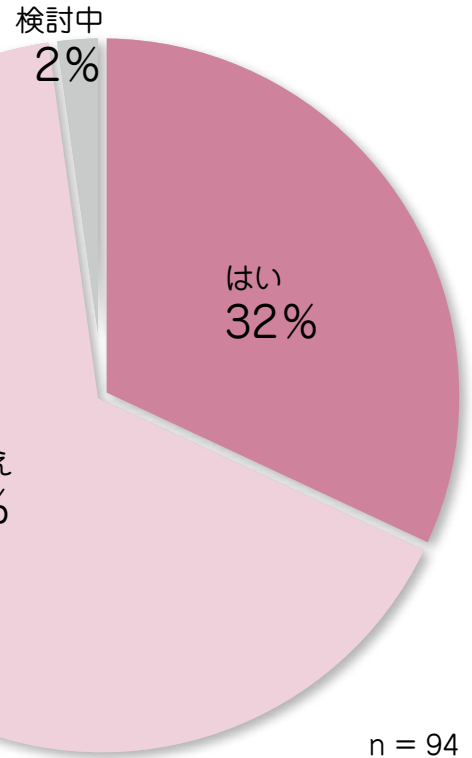
血糖自己測定(SMBG: Self Monitoring of Blood Glucose)は、インスリン量の調整や血糖状態の把握に欠かせません。また患者さんの日常生活で蓄積された一連のデータは、治療のフィードバックに大いに役立ちます。そこで今回は、SMBGの測定結果がどのように管理され、医療スタッフと共有されているかについて伺いました。

医療スタッフ94名(医師19名、看護師47名、管理栄養士10名、薬剤師6名、臨床検査技師3名、作業療法士1名、保健師1名、その他7名)。うち日本糖尿病療養指導士 37名、地域糖尿病療養指導士17名、糖尿病認定看護師9名(重複あり) 患者さんやその家族352名(病態/1型糖尿病160名、2型糖尿病180名、その他の糖尿病9名、その他 3名、罹病期間/5年以下84名、6~9年37名、10~19年106名、20~29年61名、30年以上57名、その他7名)

血糖測定器から測定結果をパソコンで読み取り、表やグラフで解析できる「管理ソフト」を導入していると答えた人が、32%。それ以外の方法では、約8割が自己管理ノートを用いていることがわかりました。また自己管理ノートや手帳といったアナログでの記録方法の改善点を聞いたところ、「患者さんが記録を持参するのを忘れる」65%、「記入漏れや誤記、虚偽の申

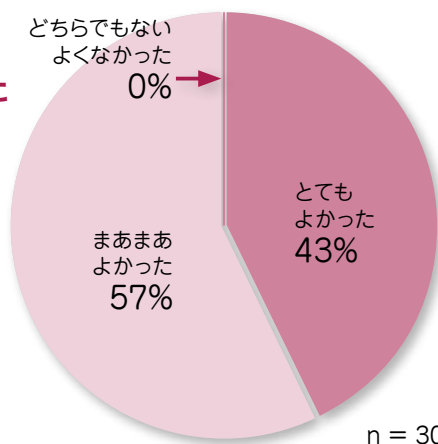
告の疑いがある」58%、「患者さんに問題点が伝わりにくい」31%といった声が多くあがりました。「良くない結果を隠したい」という心理が働き、虚偽記載につながっている」「高齢者や合併症の進行で、自己管理ノートなどの記入がうまくできない人もいる」などのコメントも寄せられています。

一方、管理ソフトを導入した人全員が「とてもよかった」「まあまあよかった」と回



答。導入前と比較して「治療効果の判定に役立った」「血糖変動の傾向がより把握できるようになった」という意見が多く見られました。また「患者さんと血糖管理について話しやすくなった」「患者さんやご家族への説明がスムーズになった」など、患者さんやご家族への説明ツールとしても、管理ソフトが役立っている様子がうかがえました。

Q. 導入してよかったと思いますか？



Q. 管理ソフト導入前と比較して、改善した点は？

n = 30 複数回答(%)

- 治療効果の判定に役立った 63
- 患者さんと血糖管理について話しやすくなった 60
- 患者さんやご家族への説明がスムーズになった 57
- 血糖変動の傾向がより把握できるようになった 50
- 高血糖や低血糖に気づくことができた 50
- 治療目標を立てやすくなった 40
- その他、血糖の問題点が発覚した 30
- 患者さんが治療に前向きに取り組むようになった 30